

環境影響評価審査書に対する事業者の主な対応

010	宇宙科学研究所相模原団地建設事業	
項目	審査書の指摘事項	事業者の対応
騒音・低周波空気振動	<p>事業予定地の南側の敷地境界近くに設置される風洞実験棟では、高圧の空気を利用した超音速風洞による実験が予定されている。</p> <p>この超音速風洞実験装置を構成している高出力の空気圧縮機、大型球形貯気層、超音速風洞は、いずれも高騒音を発生し、しかも低周波空気振動を発生する可能性も考えられる。</p> <p>しかし、計画では騒音の予測の内容及び防音対策が必ずしも明らかではなく、また低周波空気振動の予測評価がなされていないので、周波数分析を含めた詳細な調査を行い、この結果をもとに防音効果のある建物構造、消音塔の規模構造、施設の位置を検討し、その内容を明らかにすること。</p>	<p>評価書案においては「超音速風洞」の騒音レベル設計値のもとになる調査及び予測内容の詳細の記述がなかったため、類似施設の調査、気流速の違いによる数値補正、新施設における騒音レベル設計値の設定などの調査及び予測内容の説明を加え、騒音の予測内容を明らかにした。</p> <p>風洞実験等の建物構造、消音塔の規模構造については、評価書案において具体的な内容を示していなかったため、その内容を明らかにするとともに、低周波空気振動の防止に対する配慮を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> 風洞実験室の外壁天井等は鉄筋コンクリート造200mmの壁厚とし、更に吸音材を内装する。 出入り口の扉は二重の防音気密扉とし出入り口以外には開口部を設けない。 外部に設けられる送風管は厚15cmのコンクリートで四方囲い遮音をするとともに、送気管を支持するアンカーには防振装置を挿入し、送気時配管が振動することによって発生する騒音と低周波空気振動を防止する。
植物・景観	<p>キャンプ淵野辺跡地の全体的な利用計画及び環境上の配慮、更に周辺市街地との関係も考慮しながら土地利用計画、植栽計画、景観対策を検討すること。</p> <p>新たに植栽することにより緑化を図る場合には、既存の樹木、住宅地等からの景観などに配慮しながら、郷土樹種を中心にして樹種、植栽の位置や方法を検討すること。</p>	<p>自然度の比較的高いクヌギ等の保全に努めるため、福利宿泊棟、駐車場の位置、道路線形を変更した。</p> <p>外周緑地を市街地における環境保全林として位置づけ、原計画より面積を1,830平方メートル増加した。</p> <p>植栽方法については、潜在自然植生であるシラカシを主体とし、これにこの地域に多くみられる高中木の広葉樹を多種配植し、多層林を形成させる。</p>
安全	<p>風洞実験棟に付属する球形貯気槽は、10kg/平方センチメートルに近い圧縮空気を必要とし、また圧力変動の大きな使用条件が予定されているため、空気圧縮機及び関連施設では潤滑油を原因とする爆発の問題、また球形貯気槽では疲労破壊の問題が懸念される。</p> <p>このため、空気圧縮機の構造、圧縮系のフローを明らかにするとともに、安全性の高いオイルシール止めの方法や球形貯気槽の構造などを検討し、更に施設の使用に当たっては、安全の確保のための維持管理を十分行う必要がある。</p>	<p>空気圧縮機は回転式スクリー形という非接触型無潤滑方式圧縮機を使用するため圧縮系に油の混入することがなく、潤滑油を原因とする爆発は考えられない。</p> <p>球形貯気槽については、疲労破壊に対する安全性を考慮し、球殻素材に高張力鋼を使用する。</p> <p>施設の維持管理については、圧縮系は高圧ガス取締法に基づき年1回以上の保安検査を受け、また、貯気槽系は高圧ガス取締法に該当しないが、年1回以上同法に準じた定期検査を実施する。</p>